

ありがとう「感謝」

昨年、12月20日付で大崎町長を退任いたしました。12月19日の退任式後、多くの町民の方々、町議会議員並びに職員に拍手と万歳で見送っていただきこの上ない「幸せ」と「感謝」でいっぱいでした。6期24年間の長きにわたり、大崎町のかじ取り役を任せさせていただき、町政発展に邁進できましたこと、誠にありがとうございました。この24年間を顧みれば多難を極めた市町村合併、口蹄疫や新型コロナウイルス感染症の発生、町立保育所の民間移管や3校統合による新生大崎中学校のスタート。国の計画に無かつた野方ICの新設及び道の駅あらさの設置による高速バスの誘致。地元首長として判断を委ねられた県立有明高校の統廃合問題も苦渋の決断でありましたが、後のジャパンアスリートトレーニングセンター大隅の誘致につながり、スポーツ合宿誘致や地域の活性化に寄与できていることは喜びであります。そのほかにも、今のふるさと納税の主力商品になつているおおさき町饅加工組合の誘致、町民の皆様のご協力の

もと国内外から視察研修が絶えないリサイクルやSDGsの資源循環型のまちづくり、農業公社やスポーツ観光おおさきの設立、子育てや学校教育への投資。住宅取得補助金創設やタクシーチケット事業の実施。全てが職員の英知と提案力、町議会や町民各位の後押しが原動力となり、前へ前へと進めることができました。

12月21日から中野伸一新町長の町政がスタートいたしました。私同様ご支援ご協力を賜りますとともに、町民の皆様のご健康とご多幸をお祈りし退任のごあいさつといたします。

長い間ほんとうにありがとうございました。



6期24年間 長い間ごくろうさまでした

このたび、東靖弘氏の第6期目の任期満了に伴い、12月19日に退任式がおこなわれました。東氏は平成13年12月21日の就任以来、連続6期24年にわたり大崎町長を務め、町政発展に尽力されました。

就任当初、本町は厳しい財政状況に加え、市町村合併という町の存続を左右する大きな局面に直面していましたが、東町長は「対話を重ねて、心の通いあう町政」を掲げ、住民との対話を重視した町政運営に取り組まれました。

「平成の大合併」では、4町合併か単独町政維持かで町が二分されました。されましたが、住民投票の結果、わずか19票差で単独町政が選択されました。東町長はこの民意を尊重し、大崎町の独自性を守る決断をおこない、現在の大崎町の姿につなげました。

東靖弘氏の長年のご功績に深く感謝申し上げるとともに、退任後もお健やかに過ごされ、本町の歩みを温かく見守っていただきたいと思います。長い間、ほんとうにありがとうございました。

また、焼却施設を持たない本町において、ごみ処理施設の使用限界が迫る中、約450回を超える住民説明会を実施し、「分ければ資源・混ぜればごみ」を合言葉に徹底したりサイクルを推進しました。その結果、施設

の延命化と全国トップクラスのリサイクル率を実現し、取り組みは17回の日本一を達成、使用済み紙おむつリサイクルなど世界からも注目される「大崎システム」へと発展しました。